

## 今水寺

### <歴史メモ>

(参考：新城市誌，新城文化財案内，三遠の山寺)

<sup>ひえい</sup>比叡山や高野山をはじめとして，山中にお寺が建てられるようになった平安時代，<sup>きちじょうさん</sup>吉祥山の中腹に今水寺ができた。弘法大師の開山という言い伝えがあるが，その流れをくむ真言宗のお寺であったことは確かである。

本堂に十一面観音を祀り，その傍らに熊野三社権現を鎮守とし，さらに奥の院として吉祥山に吉祥天が祀ってあった。僧坊は，東谷に8坊，西谷に4坊あったといわれ，今もはっきりした寺跡の平坦地がいくつも残っている。富賀寺に残る古文書には21坊と記述されている。これは村里にある系列の寺の数を合わせた数と考えられているが，14世紀には当寺で21坊が整備されていたと推測される。

熊野神社の下に<sup>ちごいふじい</sup>稚児井，藤井という清水の出るところがある。これがいわゆる「三河の三名水」の一つとされている。また，八名井の由来となった八つ井戸に数えられている。(他に，岩井，小井，大井，桜井，柳井，亀井がある)

今水寺は現在，僧坊もなく古記録もほとんどが亡失しているが，唯一残された記録として，天正17年(1589)の検地帳写しがある。それによると，表紙に今水寺領とあり，その右側に源頼朝，左側に今川義元の名が読み取れるが，これによって鎌倉時代には源頼朝から寺領を寄せられ，戦国時代には今川義元の保護を得たことがうかがえる。

この大寺院が，野田の戦いのころに武田軍に焼かれてしまったと言われているが，天正の末には12坊も大方なくなり，慶長年間(1596～1614)には熊野神社と本尊を祀った観音堂だけであつたらしい。これらのことから，今水寺の全盛期は鎌倉・室町期であったと考えられている。

#### 三河の三名水とは

- ・大木の鑓水(豊川市)
- ・稲木の吉水
- ・八名井の今水(いまみず)  
(稚児井・藤井)



小堂の右に稚児井，左に藤井

## 今水寺の調査から

### 今水寺遺跡発掘調査概要より

平成7年11月19日

新城市教育委員会

<成立> 平安時代

○ 寺院の概要 東谷 8坊 西谷 4坊

(泉龍院, 等覚坊, 岩本坊, 杉本坊, 山本坊, 安養坊, 池之坊, 円寿坊, 不動坊, 木之本坊, 滝本坊, 地藏坊)

<経過>

- ・創建以来隆盛を極め, 今も八名, 設楽, 宝飯郡等の神社の棟札に今水寺の署名がところどころに残っている。
- ・天正(1573~1592)のころには, 12の坊の大方は衰退して延寿院のみ存続していた。
- ・宝暦5年(1755) 大洞山泉龍院が再建を企て, 富賀寺に断られ再興できず。
- ・文政11年(1828) 富賀寺が延寿院を再建。明治維新に無檀無祿のため廃却。

<調査の経過>

#### ◆ 昭和37年の調査

新城市誌編集委員会が今水寺東谷, 西谷の中世墓地の調査を実施

東谷で14世紀の集積墓群と1ヶ所の経塚?(集積墓に隣接する)を確認し, 西谷では集積墓群1ヶ所(10~11世紀推定)を確認している。発見された常滑焼の大瓶の底部には, 火葬された骨が満たされていた。この瓶は高さ50cm, 胴の径50cmほどの大きさで, 10~11世紀ごろのものであると推定されている。

#### ◆ 平成6年度の調査の概要

新城市上水道事業部が今水地内に上水道の配水池築造計画により予定地内の試掘調査を19か所実施した。

遺構 1か所の試掘場所から石が並んだ状態とその回りに焼土, 炭化層が検出された。

遺物 試掘したほぼすべての場所から中世陶器の破片が出土し, 原形をとどめる山茶碗もみられた

#### ◆ 平成7年度調査 (調査期間 平成7年5月22日~10月13日)

##### ○ 調査結果

遺構 掘立柱建物検出 この建物は火災にあったと思われ, 焼土が5cmほどの厚みで一面広がっていた。また, 建物南側には, 灰の層が確認され, 建物の一部が火災のため崩れ落ちたものと思われる。また, 2か所から柱の一部が出土している。

遺物 山茶碗などの中世陶器が多量に出土した。ほぼ原形をとどめるものも多く, 小皿, 瓶等も出土している。これらの遺物の時期は13世紀ごろと思われる。

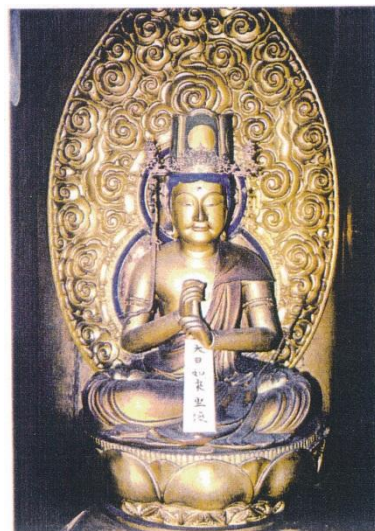
## 今水寺の文化財

### <大日如来坐像>

真言密教の教主で、偉大な輝くものを意味していたが、後に宇宙の実相を仏格化し、あらゆる仏、菩薩の最高位である密教の仏とされている。

堂内右側に祀られており、金箔でけばけばしい程に補修されている。像の高さは、45cmの木造仏で、両手で智拳印の相(仏の内面的な悟りを示す形)を結び、結跏趺坐している姿は、近づきがたい厳しさを感じる。

頭上には宝冠を戴き、白毫も大きく、玉眼嵌入(眼をはめこむこと)あり、眉毛から鼻にかけての鋭い線、口元の深い彫りこみ、大ぶりの衣のひだの表現など、端正な表情をしている。



大日如来坐像

### <十一面観音立像>

今水寺の仏像と考えられるが、虫食いによる傷みが激しく、痛々しい姿である。わずかに衣文の線が確認できる程度で、頭上仏などは、その数さえ数えきれないくらいである。

それでも、明らかに藤原仏としての気品がにじみ出ており、半眼にひらいた眼や鼻、口、頬などにその特徴がよく表れている。像高92cm、光背、両腕は明らかに後ろから補ったものである。(新城文化財案内より)



十一面観音立像

### 今水寺ゆかりの寺

- ・松鷲山花井寺(豊川市) 今水寺の慶寛法印の創建(1148年)現在は曹洞宗の寺
- ・素戔鳴神社(豊川市) 今水寺の僧享伝法印に命じ初勢天王宮を祀る。(1141年)
- ・照山城(賀茂)加納寺 今水寺の僧、石上院京山宮本法印が創立。(1466)

## 今水寺の謎

- ・大寺院がなぜなくなったのか？
- ・なぜ北向きに建てたのか？

かつて、真言密教の寺として栄えた今水寺の衰亡は、一説には野田の戦い（1573）の頃に武田軍に焼かれたとも言われるが、天正（1573～1592）の末には12坊も大方なくなり、慶長年間（1596～1615）には、熊野神社と本尊を祀った観音堂<sup>まつ</sup>だけであつたらしい。これらのことから、本寺の全盛期は鎌倉・室町期であつたと考えられている。



今水寺跡に残る熊野神社の鳥居

鎌倉時代に入って、民衆救済のための新しい仏教が普及し始めた。それが浄土宗、浄土真宗、日蓮宗であり、武士に好まれた禅宗の臨済宗、曹洞宗である。こうした大きな仏教のうねりの中で、真言密教は次第に勢力を失っていった。今水寺、大脇寺などが衰退した一つの要因と考えられる。

また、今水寺のように北に面した山麓に僧坊を建てることは、他にあまり例がないとされる。遺構がすべて北西方向に面しており、その点も大きな謎になっている。ちなみに、北西方向には砥鹿神社の奥宮が鎮座する本宮山があるが……………。

### 地元八名井出身の「富安秀直」氏の推理（要約） 今水寺物語より

元龜2年（1572）、將軍足利義昭の織田信長討伐令を受けて、武田信玄は三方ヶ原で徳川家康に大勝する。翌年（1573）正月、宇利峠を超えて野田城を攻めた。1月あまりかけて落城させるも体調不良のため西上をあきらめ、甲州への帰路の途中、信州駒場で落命した。

<疑問>

- ・城兵わずか400の兵に2万5千の武田がなぜ2か月近くも要したか。

<推理>

- ・体調が深刻な状況で、進軍できる状況でなかった。今水寺で死去したのではないか。
- ・野田城攻めの時期は旧暦の正月明け、今の2月で厳寒期。陣幕だけの野営は考えられない。武田信玄は今水寺に本陣を構えたのではないか。

<根拠>

- ・野田城から2km、背後の憂いなく目視できる距離。あえて総攻撃をせず急がなかった。
- ・今水寺が信玄に焼かれ、僧が斬殺された伝承が地元に残る。
- ・信玄の重体、死が織田・徳川にもれば、武田一族存亡の危機となる。口封じのため、寺が焼かれ、僧が斬殺されたのではないか。



## 今水寺の今

山麓から今水寺跡まで車が入る。道沿いには何基かの石仏が見られるが、寺跡らしいところは見られない。熊野神社（社殿は当時の遺構ではない）の鳥居前の鐘楼跡しょうろうに礎石そせきが残り右手奥の弘法大師の小堂のあるあたりには藤井・稚児井ちごい・あるいは石組みなどがある。参道の左手の林道に入ると寺跡えんじゆいん（延寿院など）や古石塔が散在していたりする。いずれにしても、広い木立の中で何坊かにわたる今水寺跡の全容をみることは困難である。（新城文化財案内より）



参道にみられる33観音

### <遺構の概要>

平場ひらばは、東谷と呼ばれる熊野神社の位置する尾根と一つ谷を挟んだ西谷と呼ばれる西側の尾根斜面に集中して150か所以上を確認している。しかし、永禄11年（1568）の棟札に、北谷の坊名が記してあるものや東谷の位置をさらに東方にする伝承があり、本寺の範囲はさらに広がる可能性がある。平場は南東・北西方向に延び、北へ行くほど開いた丘陵の尾根上や斜面に展開し、熊野神社が鎮座する平場の後方やさらにその上で大規模な平坦地が確認され、最高所にある平場が本堂跡と推定される。推定本堂跡を含め、遺構はすべて北西方向に面しており、通例のように南面を指向する場合とは異なるため奇異な印象を受ける。ちなみに、本寺の北西方向には三河一宮とが・砥鹿神社の奥宮が鎮座する本宮山がある。

現在も明瞭な平場が幾つも山内に所在し、推定される寺域がさらに広がる可能性が分かっている。また、北面に坊院の展開が考えられるものとしても貴重であり、史跡の範囲の見直しや各種調査の実施していくことも今後は必要であると思われる。



（市ホームページより）

刀洗池と伝承されている池

# 今水寺関係の歴史

鳳来寺山関係年譜 (鳳来寺山東照宮社務所 刊) 等より

- 702年(大宝2) 富賀寺創建 真言宗高野派 行基開祖
- 703年(大宝3) 鳳来寺創建 真言宗 利修仙人開山
- 同 今水寺創建 八名井熊野三社創祀
- 809年(大同4) 八名井吉祥山腹に今水寺建立さる
- 816年(弘仁7) 空海, 高野山に真言宗を開く
- 1148年(久安4) 今水寺の慶寛法印が松鷲山花井寺(豊川市)を創建
- 1175年(安元1) 千秋清季, 野田館を築く
- 1227年(安貞1) 道元, 永平寺を開く 曹洞宗を伝える
- このころから新城地方にも曹洞宗の寺院が多くなる
- 1335年(建武2) 富永直郷が野田館に入り, 富永庄を領した
- 1338年(延元3) 足利尊氏, 将軍となる
- 1392年(元中9) 南北朝統一される
- 1464年(寛政5) 大洞山泉龍院創建
- 1467年(応仁1) 応仁の乱おこる 細川勝元(三河勢従う)×山名宗全
- 1474年(文明4) 大地震がおこり, 神社・仏閣が多く倒壊。
- 1506年(永正3) 菅沼定則, 野田館に入る。1516年に野田城に移転
- 1524年(大永4) 松鷲山花井寺(豊川市)が曹洞宗に改宗
- 1530年(享禄3) 松平清康, 今水寺で休息後, 宇利城の熊谷実長を攻める
- 1533年(天文2) 豊島吉祥山永徳寺創建(曹洞宗 もと真言宗)
- 1546年(天文15) 今川義元, 吉田城を落とす
- 1560年(永禄3) 桶狭間の戦い このころ菅沼定盈, 今水寺延寿坊にて手習い
- 1561年(永禄4) 野田城, 今川氏親に明け渡すが, 翌年奪い返す
- 1569年(永禄12) 山家三方衆, 武田信玄に属す
- 1571年(元龜2) 菅沼定盈, 信玄に攻められ西郷に退くが, 野田城修復後戻る
- 同 信長が比叡山焼き討ち。信玄信長を非難, 延暦寺を甲斐で再興図る
- 1572年(元龜3) 家康, 三方ヶ原で信玄に敗れる
- 鳳来寺衆徒御陣見舞い, 甲冑をつけ御本陣相勤む
- 1573年(元龜4) 2月10日 信玄, 野田城を攻略する 3月下旬 鳳来寺に陣す
- 4月12日 甲府への帰途, 信州伊奈郡駒場にて死亡
- 1573年(天正1) 菅沼定盈 洞谷山幸春寺創建(後の宗堅寺) 曹洞宗
- 1575年(天正3) 長篠・設楽原の戦い
- このころ今水寺の12坊は衰退し, 延寿院のみ
- 1579年(天正7) 野田城主, 定盈 中宇利八幡神社創建
- 1589年(天正17) 検地帳写し 今水寺領(源頼朝, 今川義元の名) 翌年太閤検地
- 1590年(天正18) 菅沼定盈 上野国阿保へ移封される 1万石
- 1603年(慶長8) 家康, 征夷大將軍に
- 今水寺 延寿院, 文禄年間(1592~1596)か慶長の初年ころに廃滅
- 徳川時代まで残ったのは, 熊野三社と観音堂のみ
- 1755年(宝暦5) 大洞山泉龍院が今水寺の再興を図るも, 富賀寺に断られる
- 1828年(文政11) 富賀寺が延寿院を再建
- 1873年(明治6) 今水寺 明治維新で無檀無祿のため廃却となる